vinetur

インド、英国からのスコッチ原酒輸入に実効税率162.5%を課す

関税分類をめぐる紛争で80本超のコンテナが港に留め置かれ、インド・英国貿易協定の主要な約束が損なわれている

2026年11月18日（水）



ロイターによると、インドは英国からのスコッチウイスキー原酒の輸入に、関税と税を合わせた実効税率162.5%を課している。関税分類をめぐる紛争により、両国の貿易協定で約束された主要なメリットの一つが縮小する恐れがある。

ロイターが11月18日水曜日、政府文書と事情を直接知る8人の話を引用して報じたところでは、この実効負担は協定発効前に適用されていた150%を上回る。この変更は、スコッチを原酒の状態で輸入し、インド国内でブレンドして世界有数のウイスキー市場で販売する酒類企業にとって重要だ。

争点となっているのはスコッチの原酒であり、瓶詰めされたスコッチに自動的に適用されるわけではない。業界関係者は、この問題をすべてのウイスキー輸入に広く当てはめるべきではないとしている。7月15日に発効したインド・英国貿易協定では、スコッチの関税が75％に引き下げられた。英国政府と業界はこの引き下げを、インドの大規模な蒸留酒市場に依存するDiageoやPernod Ricardなどの企業にとって、大きな市場開放だと位置づけていた。

ロイターによると、インドの調査当局は現在、一部のスコッチ原酒が誤った関税分類で輸入されていると主張している。当局は、これらの貨物はブレンデッドウイスキーなどの製造に使われる原材料として扱われる、新設の「アルコール調製品」の関税品目に該当するとしている。この品目の関税率は150％だ。国内の消費税を加えると、実効負担は合計162.5％となる。

この解釈をめぐり、貿易協定に関連する初の大きな公の紛争が起きている。ロイターによると、Pernod Ricard、Diageo、Bacardiなどの企業は、問題の調査中、80本を超えるコンテナを港で留め置かれている。対象となる貨物には、インドの幅広い中間所得層向け製品の製造に使われる、数千リットルのスコッチ原酒が含まれる。ブレンデッドウイスキーは、Chivas Regalや Johnnie Walkerのような輸入プレミアムボトルよりはるかに低価格で販売されている。

ロイターによると、インドは販売量で世界最大のスコッチ市場であり、英国から輸入されるスコッチの約80％は原酒の状態で届く。その多くはインド製外国産酒類（IMFL）に使われる。これは、少量のスコッチをほかの蒸留酒とブレンドするカテゴリーだ。大手メーカーにとって、スコッチ原酒を途切れなく確保することは、工場への供給を維持し、店頭の在庫を切らさないために重要となる。

留め置かれた貨物を引き取るため、輸入業者は調査が続く間、暫定的な手続きを利用している。ロイターによると、企業は貨物価値の75％に相当する関税を前払いし、残りの負担分については銀行保証を差し入れる必要がある。この方法なら出荷を進められるものの、資金が拘束され、資金調達の負担も増す。特に、保証を得るための担保が必要となる中小企業には影響が大きい。

影響は多国籍企業にとどまらない可能性がある。ロイターによると、ムンバイ市場に上場するRadico Khaitan、Allied Blenders and Distillers、Tilaknagar Industriesもスコッチ原酒を輸入しており、調査の対象となっている。ロイターが引用した幹部らは、世界最大手の蒸留酒メーカーのような財務基盤を持たない企業にとって、保証の要件は運転資金を圧迫し、生産計画を難しくしかねないと述べた。

今回の貿易問題は、インドで事業を行う外国投資家にとっておなじみの懸念も再燃させている。商業計画がすでに固まった後に、関税や税をめぐる紛争で事業コストが変わるという問題だ。インド当局は、国内法を執行していると長年説明してきた。一方、企業側は、分類の判断は予測が難しく、輸入事業の採算を大きく変えかねないと主張している。

7月15日の協定に至る交渉で、ウイスキー関税は最も難航した分野の一つだっただけに、今回の対立は特に微妙な問題となっている。英国政府関係者は、スコッチを協定の恩恵が期待される代表的な製品の一つだと繰り返し説明してきた。スコッチウイスキー協会は、この協定によりインド向け輸出が5年間で13億4,000万ドル増える可能性があるとしている。

英国はインドに問題の解決を求めている。ロイターに対し、英国政府の報道官は、貿易協定で合意した関税水準で英国企業が輸出できるよう、閣僚らがニューデリーと緊急に協議していると述べた。

インドも紛争に対処する意向を示しているが、ロイターによると、財務省と税務当局は実効税率162.5%についてのコメント要請に応じなかった。

この対立はすでに株価にも影響している。ロイターによると、関税紛争に関する報道を受け、ロンドン市場のDiageo株は1.5%下落し、フランス市場のPernod Ricard株は1.25%下落した。インドは販売量でPernod Ricardにとって最大の市場であり、同社とDiageoは同国の蒸留酒業界の主要企業だ。

関係企業にとって、目下の問題は法的な文言よりも、供給とコストにある。複数の幹部がロイターに語ったところでは、貿易協定による関税引き下げで75%になった後、スコッチを使った一部製品の価格を引き下げたが、新たな分類をめぐる主張が適用されると、輸入負担は大幅に増した。業界関係者はロイターに、関税上の扱いをめぐる議論は予想していたものの、貿易協定発効前の水準を上回る実効負担につながる国内税の追加までは想定していなかったとも述べた。

Diageoはロイターの取材にコメントを控えた。Pernod RicardとBacardiは質問に回答しなかった。税関や政府機関で手続きが進むなか、輸入業者は貨物の流れを維持しようとしている。同時に、スコッチ原酒の商業的な価値を協定から損なうものだとする関税解釈に異議を唱えている。